

## 議 事 録

|   |  |
|---|--|
| 会議等名称   | 平成26年度 第4回 伊那市子ども・子育て審議会               |
| 日 時   | 平成27年3月12日(木) 午後6:30～7:30              |
| 場 所   | 市役所 501会議室                             |
| 欠 席 者   | 伊藤百合子委員 宮下幸子委員                         |
| 議 題   | (1) 伊那市子ども・子育て支援事業計画(案)について<br>(2) その他 |
| 議 事 内 容   |  |
| <p><b>3 協議事項</b></p> <p>(1) 伊那市子ども・子育て支援事業計画(素案)について</p> <p>&lt;事務局&gt; 事業計画(案)により説明をする。</p> <p>《質疑応答》</p> <p>&lt;会長&gt; 各委員へ質疑を求める。</p> <p>&lt;委員&gt; 目標が掲げられ、達成に向けた案もある。良くできているのではないか。人口が減少しているが、市としての対策はあるのか。</p> <p>&lt;事務局&gt; 子どもは減少していく見込みであるが、人口増となるような取り組みをしていきたい。</p> <p>本計画と、現状に乖離がある場合は、計画の中間年で見直しをすることになっている。</p> <p>&lt;委員&gt; 良くできているのではないか。基本方針3の「青少年健全育成と家庭教育の充実」について、家庭教育に関する部分を補強する必要がある。ここが一番重要な部分である。保育園や学校から家庭へ対し、家庭教育の必要性を啓蒙することが必要だ。家庭にどう対応していくか触れてほしい。</p> <p>&lt;会長&gt; 事務局で検討を。</p> <p>&lt;委員&gt; 未満児保育の利用者数は、平成29年度をピークに減少していく見込みとなっている。先のことはわからないが、検証し、中間見直しをしてほしい。</p> <p>&lt;委員&gt; 幼稚園の園児数は増加してきている。緑ヶ丘幼稚園は移転し、未満児を40人受け入れる予定である。今後は、保育園と幼稚園の連携が必要となってくる。行政として幼児教育の位置づけをしてほしい。</p> <p>&lt;委員&gt; 幼稚園の園児を、市内だけでなく市外からも受け入れてほしい。行政側の支援を検討してほしい。</p> <p>&lt;委員&gt; 社会へ出て世代間の格差により問題を起こす事例がある。また、問題を抱えている保護者が多い。主体となる自分がいなかった。自発的な生き方ができなかった。それ</p> |  |

が今親となっている。保護者となっても子育てができない。家庭教育や相談体制の整備が必要だ。保護者がどんな状況におかれているのか行政や地域の目が届くようになってほしい。

<委員> 養育相談の見込み数がある。子育てに不安を抱えている親がいる。必要に応じた相談体制を整備してほしい。

— 質問・意見なし —

<会長> 事業計画の内容はこれで良いか。

<各委員> 了解

<会長> 子ども・子育てについて日ごろ感じていることを出してほしい。

伊那市の相談体制はどうなっているか。

<事務局> 保健師による乳児家庭全戸訪問事業や、子ども相談室の体制等充実させてきている。各方面で、さらに充実をさせていきたい。

<委員> 「たかずや」は問題が濃縮している。支給型の支援ではなく、家庭を立て直す支援が必要だ。家庭が成り立っていない。子供を家へ帰しても、問題は繰り返される。社会生活能力訓練（SST）が必要ではないか。

<委員> 保育園で家庭と話す場が重要となる。子どもの姿を見つめることにより、子どもから学ぶことができる。子どもの姿から親のつまづきが見えてくる。冷静な目で子どもを見る力をつけてほしい。

<会長> 乳幼児期は親との関わりが大切である。人間関係作りが大切である。

子どもからのサインを見逃さないようにしなければならない。

## (2) その他

<事務局> なし。

<委員長> 委員から何かあるか。

<各委員> なし。

## 4 その他

<事務局> ① 次世代育成支援行動計画について説明

② 平成27年度 伊那市の子育て支援関連予算について説明